

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成25年6月26日

【事業年度】 第33期(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

【会社名】 株式会社システムリサーチ

【英訳名】 SYSTEM RESEARCH CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山田 敏行

【本店の所在の場所】 名古屋市中村区岩塚本通二丁目12番

【電話番号】 052 - 413 - 6820(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員企画広報室ゼネラルマネージャー 小池 貴司

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中村区岩塚本通二丁目12番

【電話番号】 052 - 413 - 6820(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員企画広報室ゼネラルマネージャー 小池 貴司

【縦覧に供する場所】 株式会社システムリサーチ 東京支店
(東京都豊島区池袋二丁目43番1号(池袋青柳ビル7階))
株式会社システムリサーチ 大阪支店
(大阪市西区西本町一丁目13番40号(コーンズハウス5階))
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (千円)	9,150,884	6,749,690	6,415,676	7,192,053	7,629,817
経常利益 (千円)	519,735	334,926	197,127	322,450	364,549
当期純利益 (千円)	294,849	187,565	104,471	170,191	226,820
包括利益 (千円)			101,778	170,809	227,783
純資産額 (千円)	2,137,686	2,220,806	2,218,015	2,284,291	2,412,585
総資産額 (千円)	4,951,044	4,934,091	5,102,947	5,509,906	5,431,650
1株当たり純資産額 (円)	1,022.84	1,062.62	1,061.33	1,093.07	1,152.39
1株当たり当期純利益金額 (円)	143.45	89.74	49.98	81.43	108.53
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	43.1	45.0	43.4	41.4	44.3
自己資本利益率 (%)	14.9	8.6	4.7	7.5	9.6
株価収益率 (倍)	4.7	8.8	17.0	12.8	11.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	246,051	447,952	318,404	529,645	446,547
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	89,215	107,433	282,501	409,480	76,763
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	520,053	111,601	62,693	12,489	267,756
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,015,494	1,467,614	1,566,212	1,673,887	1,775,914
従業員数 (名)	614	645	672	665	691

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (千円)	8,431,784	6,049,845	5,712,439	6,499,323	6,909,137
経常利益 (千円)	517,852	326,909	192,960	290,506	333,367
当期純利益 (千円)	294,931	182,358	103,082	140,419	192,015
資本金 (千円)	550,150	550,150	550,150	550,150	550,150
発行済株式総数 (株)	2,090,000	2,090,000	2,090,000	2,090,000	2,090,000
純資産額 (千円)	2,233,414	2,311,327	2,307,147	2,343,650	2,432,810
総資産額 (千円)	4,767,580	4,730,626	4,896,991	5,309,114	5,177,643
1株当たり純資産額 (円)	1,068.65	1,105.93	1,103.98	1,121.47	1,164.14
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	50.00 ()	50.00 ()	50.00 ()	50.00 ()	50.00 ()
1株当たり当期純利益金額 (円)	143.49	87.25	49.32	67.19	91.88
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	46.8	48.8	47.1	44.1	46.9
自己資本利益率 (%)	14.2	8.0	4.4	6.0	8.0
株価収益率 (倍)	4.7	9.1	17.2	15.5	13.4
配当性向 (%)	34.8	57.3	101.3	74.4	54.4
従業員数 (名)	552	579	606	603	625

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 当社は、平成20年6月20日付で第三者割当増資を行っております。

その結果、資本金は550,150千円、発行済株式総数は2,090,000株となっております。

2 【沿革】

- 昭和56年3月 名古屋市東区泉に㈱システムリサーチを設立、ソフトウェア開発業務を開始。
- 昭和58年12月 名古屋市中村区則武へ本社を移転。
- 昭和61年7月 静岡県浜松市砂山町に浜松営業所を開設。
労働省（現厚生労働省）に特定労働者派遣事業の届出登録。
- 昭和62年2月 大阪市淀川区西中島に大阪支店を開設。
- 昭和63年7月 本社を名古屋市中村区名駅へ移転。
- 平成元年2月 東京都豊島区南大塚に東京支店を開設。
- 平成元年12月 大阪支店を大阪市西区西平町に移転。
- 平成2年4月 浜松支店を静岡県浜松市砂山町325-34に移転（平成13年8月に閉鎖）。
- 平成2年8月 ソフトウェア開発業務拡大に伴い、名古屋市中村区剣町に開発センター（現情報センター）を開設。
- 平成4年5月 S I サービス事業強化のため、名古屋市中村区剣町にN B（NEW Business）センター（現技術センター）を開設。
- 平成6年2月 本社を開発センターへ移転。
- 平成7年3月 通商産業省（現経済産業省）にS I 企業として登録。
- 平成11年3月 名古屋市中村区名駅にパソコンスクール事業を中心とした子会社として、メディアスタッフ㈱を設立。
- 平成11年6月 名古屋市中村区剣町に開発センターを移転し、従来の開発センターを本社ビルとする。また、N B センターを技術センターに名称変更。
- 平成11年9月 電子商取引事業拡大のためインターネット上にショッピングモール「インターネット市場“あるる”」を開設。
- 平成12年4月 大阪支店を大阪市西区西本町に移転。
- 平成13年3月 経済産業省よりS I 企業として認定を受ける。
- 平成13年4月 名古屋市中区に伏見事務所を開設。
- 平成14年3月 I S O 9 0 0 1 の認証を取得。
- 平成14年5月 子会社であるメディアスタッフ㈱の株式を売却。
- 平成16年1月 I S M S の認証を取得。
- 平成16年4月 厚生労働省から一般労働者派遣事業の認可を取得。
- 平成17年6月 ジャスダック証券取引所に株式を上場。
- 平成18年10月 松下電器産業㈱（現パナソニック㈱）よりイリイ㈱の株式を取得し、連結子会社とする。
- 平成22年4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所（J A S D A Q 市場）に株式を上場。
- 平成22年10月 大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所J A S D A Q 市場および同取引所N E O 市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所J A S D A Q（スタンダード）に株式を上場。
- 平成23年11月 本社を名古屋市中村区岩塚本通に移転。
- 平成24年12月 株式会社ソエルを設立（出資比率75%）連結子会社とする。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社および連結子会社2社で構成され、S I サービスおよびソフトウェア開発を主たる業務としております。更にコンピュータ機器等の商品販売、WEBサイトの運営、ソフトウェアプロダクト開発販売等も行う総合情報サービス業であります。

当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、業務区分別の内容を記載しております。業務区分別事業内容および当社と子会社の当該事業に係わる位置付けは次のとおりであります。

業務区分	業務区分別事業内容	主な会社
S I サービス業務	システム構築を一括して提供するサービス。システム構築用ハードウェア等を含む。	当社 イリイ株式会社
ソフトウェア開発業務	特定ユーザー向けの「オーダーメイド型」のプログラム作成やソフトウェア保守等。	当社 株式会社ソエル
ソフトウェアプロダクト業務	不特定ユーザー向けのプログラム作成、販売および保守等。	イリイ株式会社
商品販売	情報機器、ソフトウェア等の商品仕入れ販売。	当社 イリイ株式会社
その他	WEBサイトの運営等。	当社 イリイ株式会社 株式会社ソエル

当社の業務区分別事業内容は、以下のとおりであります。

(1) S I (注1) サービス業務

コンピュータおよび周辺機器の選択からネットワークまで、お客様に最適なソリューションを提供すべく、総合的にシステム開発から構築までを提案しております。ISO9001に基づく徹底した品質管理で、企画・設計・開発・保守に至るまで総合的なサービスを提供しております。

また、独立系のIT企業としてメーカーに左右されることなく、蓄積した専門知識と新技術で顧客の経営課題に的確に対応し、顧客利益を創出できるシステムの提案と構築を目指しております。

具体的には、通信制御技術を使った高速道路標示板制御システム、大手メーカー等におけるFA制御技術(注2)を駆使した自動倉庫システム、カーディーラーシステム、インテリジェントビルの管理システムなど、専門的で特殊な技術を必要とされる業務も行っております。

(2) ソフトウェア開発業務

大手企業の大型汎用機ユーザーでの情報システム開発を、常駐型を中心とした請負業務もしくは派遣業務として行っております。企業の基幹業務のシステム開発とメンテナンスを、クオリティの高い技術者によって行うことにより、多くの顧客からは、リピートオーダーをいただき、継続的な取引を続けております。

製造業、流通業、サービス業など、業種・業態を問わずシステムの上流工程から下流工程(注3)、およびその後の保守メンテナンス業務までの広範囲に亘ってサービスを行っております。

また、メインフレーム系システム(注4)の保守・メンテナンスだけではなく、新しいプラットフォーム(注5)への移植(レガシーマイグレーション(注6))も行っております。

(3) ソフトウェアプロダクト業務

会計・給与計算などソフトウェアパッケージを中心とした不特定ユーザー向けのプログラム作成、販売および保守等の業務を行っております。

(4) 商品販売

S I サービス業務を推進していくうえで、ソフトウェアのみならずハードウェアからネットワークまで独立系の当社の強みを活かし、各メーカーの製品を最適な組み合わせで提供しております。

(5) その他

WEBサイト運営

平成11年9月に生活・趣味関連を中心とした商品を扱う情報仲介型ショッピングモール「インターネット市場“あるる”」を開設し運営しております。

平成16年4月より「ネットでショップもうかルンバ」（ネットショップ作成支援システムと運営システム）を開設し、ASP（注7）事業として運営、電子商取引（EC）分野の事業を幅広く展開しております。

（注1）SI（System Integrator）

利用先の業務上の問題点や課題などに合わせた、総合的なシステム構築と保守管理などをする業者をいいます。

当社は、平成13年3月に経済産業省より、システムインテグレーションサービスを的確に遂行できる経理的基礎、技術的能力、システムインテグレーションサービスの実績を備えているとして認定を受けております。（SI認定企業）

（注2）FA（Factory Automation）制御技術

FAとは、工場や研究所などでの作業を自動化する機器の総称、またはこうした機器により作業を自動化することであり、このための技術をFA制御技術といいます。

（注3）上流工程から下流工程

システム開発の工程は、企画 - 要件定義 - 概要設計 - 詳細設計 - プログラム設計 - テストとなりますが、その内の企画、要件定義、概要設計の工程を上流工程、それ以降の詳細設計、プログラム設計、テストを下流工程といいます。

（注4）メインフレーム系システム

メインフレーム（main frame / 大型汎用コンピュータ）系システムは、大型汎用コンピュータを用いた企業の基幹業務を中心としたシステムのことをいいます。

（注5）新しいプラットフォーム

プラットフォームはシステムなどの基礎となる技術やハードウェア、ソフトウェアのことです。旧来の大型汎用コンピュータに代わって登場してきたUNIXシステムやWindowsシステムなどを新しいプラットフォームといいます。

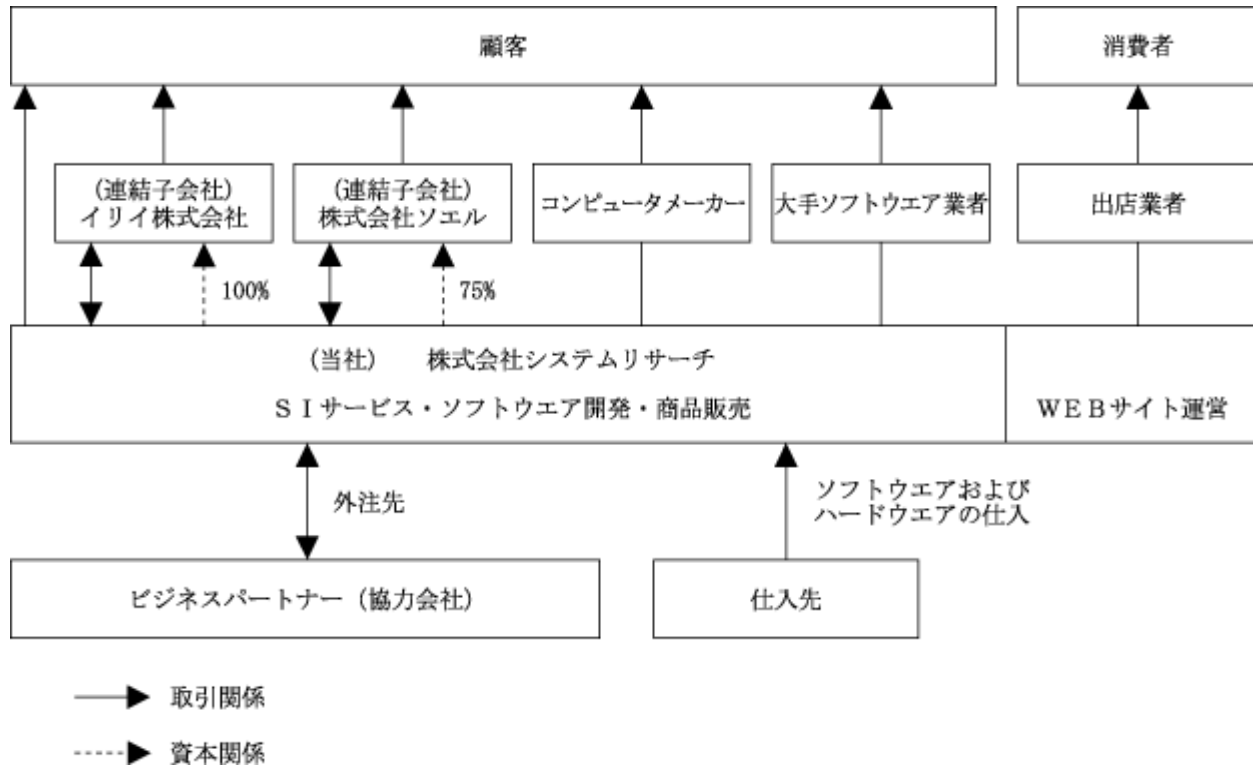
（注6）レガシーマイグレーション

メインフレームを使ったシステムは「レガシーシステム」と呼ばれ、企業の基幹システムなどに多く採用されております。このメインフレームで構築されたシステムを、UNIXやWindowsなどのプラットフォームに移植することをいいます。

（注7）ASP（Application Service Provider）

インターネット経由で各種ソフトをユーザーに“期間貸し”で利用させるサービスをいいます。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な 事業の内容	議決権の 所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) イリイ株式会社 (注2)	東京都文京区	119,589	ソフトウェア関連	100.0	役員の兼任3名
株式会社ソエル	岐阜県大垣市	20,000	ソフトウェア関連	75.0	役員の兼任3名

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2 特定子会社であります。
3 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ソフトウェア関連	691
合計	691

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。
3 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
625	32.4	7.8	4,932

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。
3 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度のわが国経済の前半は、東日本大震災からの復興需要や政策効果に支えられて持ち直しの動きが見られたものの、海外経済の減速や日中関係の悪化、長引くデフレなど日本経済にとって厳しい状況で推移しました。このような状況のなか、昨年12月に誕生した安倍政権の経済政策「アベノミクス」への期待や円安・株高などで、企業心理が上向き景況感の改善が伺えるものの、欧州債務問題の再燃や日中関係の行方など先行き不安が残る状況でもあります。

一方、情報サービス産業におきましては、経済産業省の「特定サービス産業動態統計」によると、平成25年2月の情報サービス業の売上高は前年同月比1.8%減と2か月ぶりの減少となりました。業務種別では、主力の「受注ソフトウェア」は同6.3%の減少、「ソフトウェアプロダクト」は同13.4%の増加であります。

このような状況下、顧客企業のIT投資需要が回復傾向にあり、既存取引先向けソフト開発などが伸びたことで、本社地区、東京地区では技術者が不足している状況となっております。

平成23年11月、本社機能と技術部門を新社屋に集約しました。これにより組織内の連携強化、業務遂行の一層の効率化が図られ、その効果も徐々に現れてまいりました。収益確保に向けた経費削減策としては、プロジェクト毎の原価管理の徹底、その他不要不急の経費を抑えるなどコスト削減策の継続実施に取り組んでまいりました。また、企業の社会的責任の一環として、障害者の安定的な職場の確保を図るため特例子会社「株式会社ソエル」を平成24年12月25日に設立いたしました。

このような取り組みの結果、業務区分別の売上高につきましては、SIサービス業務は、自動車関連製造業などのIT投資需要の回復傾向を受け売上高は、3,969,964千円（前年同期比1.9%増）となりました。また、ソフトウェア開発業務では、既存顧客からの継続受注を安定的に確保でき堅調に推移したことから売上高は、2,972,733千円（前年同期比13.1%増）となりました。商品販売におきましては、情報機器、ネットワーク機器等の販売により、売上高は139,540千円（前年同期比6.2%増）、ソフトウェアプロダクト業務におきましては、コールセンター向けの商品や次世代通販業向けのパッケージ商品などの販売活動を展開してまいりました。この結果、売上高は542,040千円（前年同期比1.2%増）となりました。その他WEBサイトの運営等での売上高は、インターネット関連の「ネットでショップもうかルンバ」などで5,538千円（前年同期比35.7%増）となりました。

以上の結果、売上高7,629,817千円（前年同期比6.0%増）、営業利益372,141千円（前年同期比19.8%増）、経常利益364,549千円（前年同期比13.0%増）、当期純利益226,820千円（前年同期比33.2%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動により446,547千円増加し、投資活動により76,763千円減少、財務活動により267,756千円減少した結果、期末残高は1,775,914千円となりました。

また、当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動による資金につきましては、税金等調整前当期純利益364,015千円（前年同期比44,582千円増）や売上債権の減少額222,801千円（前年同期比227,951千円増）が法人税等の支払額224,931千円（前年同期比207,196千円減）や仕入債務の減少額104,753千円（前年同期比82,695千円減）などを上回ったことにより、446,547千円の増加（前年同期比83,098千円減）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動による資金につきましては、有形固定資産の取得による支出16,490千円（前年同期比334,813千円増）および無形固定資産の取得による支出60,288千円（前年同期比2,218千円減）などにより、76,763千円の減少（前年同期比332,716千円増）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動による資金につきましては、長・短期借入金の返済による支出1,814,356千円（前年同期比34,592千円増）や配当金の支払額104,489千円（前年同期比2千円増）が、長・短期借入れによる収入1,650,000千円（前年同期比300,000千円減）を上回ったことにより、267,756千円の減少（前年同期比255,267千円減）となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績を業務区分別に示すと、次のとおりであります。

業務区分	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	生産高(千円)	前年同期比(%)
SIサービス業務	4,050,948	105.1
ソフトウェア開発業務	2,972,733	113.1
ソフトウェアプロダクト業務	541,181	100.9
その他	5,538	135.7
合計	7,570,401	107.8

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、業務区分別の実績を記載しております。

(2) 外注実績

当連結会計年度の外注実績を業務区分別に示すと、次のとおりであります。

業務区分	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	外注高(千円)	前年同期比(%)
SIサービス業務	1,347,324	110.6
ソフトウェア開発業務	718,577	108.1
ソフトウェアプロダクト業務	34,322	79.6
その他	7,408	
合計	2,107,632	109.4

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、業務区分別の実績を記載しております。

(3) 仕入実績

当連結会計年度の仕入実績を業務区分別に示すと、次のとおりであります。

業務区分	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	仕入高(千円)	前年同期比(%)
商品販売	117,559	115.4

- (注) 1 金額は、仕入価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、業務区分別の実績を記載しております。

(4) 受注実績

当連結会計年度の受注実績を業務区分別に示すと、次のとおりであります。

業務区分	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
SIサービス業務	4,129,914	109.0	645,757	132.9
ソフトウェア開発業務	2,981,873	111.5	282,040	103.3
ソフトウェアプロダクト業務	571,782	104.7	57,982	205.3
商品販売	129,059	89.4	6,103	36.8
合計	7,812,629	109.2	991,884	123.4

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、業務区分別の実績を記載しております。

(5) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を業務区分別に示すと、次のとおりであります。

業務区分	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
SIサービス業務	3,969,964	101.9
ソフトウェア開発業務	2,972,733	113.1
ソフトウェアプロダクト業務	542,040	101.2
商品販売	139,540	106.2
その他	5,538	135.7
合計	7,629,817	106.0

(注) 1 主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)トヨタコミュニケーションシステム	893,317	12.4	1,074,451	14.0
東芝ソリューション(株)	747,059	10.3		

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 当連結会計年度の東芝ソリューション(株)については、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

4 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、業務区分別の実績を記載しております。

3 【対処すべき課題】

わが国の情報サービス産業は、世界経済の相互依存による経済のグローバル化、情報システムの利活用における「所有から利用へ」の流れの顕在化など、かつて経験したことのない大きな構造的環境変化に直面しています。

こうしたなか、情報システムの進展は目覚ましく多くの産業と密接に関連するようになり、さまざまな顧客情報や機密情報がシステム上で活用されております。一方で、不正アクセスもしくは内部犯行などによって、これらの情報の漏えいを引き起こした場合、対応を誤れば企業や組織の存続が損なわれる恐れがあります。こうした状況から当社グループは、顧客の抱える経営課題に最適なソリューションを提供し顧客からの信頼感を得るため、優秀な人材の確保と実践型人材の養成。情報セキュリティガバナンスの確立。個人情報保護法、労働者派遣法、下請代金支払遅延防止法等の法令遵守。インサイダー取引規制の啓蒙活動。

事業継続（BCM：Business Continuity Management）体制の確立等に取り組み、経営基盤の安定化と事業拡大に向けて邁進してまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

(1) 事業環境の変化に伴う影響について

経済情勢の悪化に伴い、企業の情報化投資の抑制傾向が強まると、それまで予定されていたシステム開発の案件が中断・縮小されることがあります。こうした企業の情報化投資削減により、当社技術者の稼働率が低下し、売上原価を押し上げる結果となります。このような状況が長引き、当社予想に反し企業の情報化投資が動き出さない場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 主要顧客との取引について(単体ベース)

当社の主要商圏であります東海地区におけるトヨタグループとの取引は、重要な位置を占めておりますが、大手システムインテグレーターを経由して受注しており、最終ユーザーがトヨタ自動車株式会社となる売上高は下記のとおりであります。

平成24年3月期 売上金額 1,497百万円 売上比率 23.0%

平成25年3月期 売上金額 1,787百万円 売上比率 25.9%

現状は、自動車関連製造業全般的に情報化投資が回復傾向にあります。トヨタ自動車株式会社の事業動向によっては、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 収益性の低いプロジェクトの発生可能性について

当社では、品質管理強化に向けたP R M (Project Risk Management)活動を重要な柱として位置付け、システム開発部門、経営管理部門が連携を密にし、受注時の利益の確保とリスク回避のための改善活動を組織的に推進しております。しかしながら、受託した案件のうち、開発の難易度やバグ(コンピュータプログラムに含まれる誤りや不具合のこと)等の想定外のコスト発生のため、収益の低いプロジェクトが発生した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) ソフトウェアパッケージの開発・販売について

ソフトウェアパッケージの開発は、OS(基本ソフト)や開発ツールのバージョンアップやベンダー側からの製品サポートの終了等予想を超える事態により開発計画の遅延・コスト増ならびに品質精度の問題が発生する場合があります。また、ソフトウェアパッケージ市場の動向等により将来の収益計画を下方修正するに至った場合には業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 技術者の確保、育成について

情報システムの設計、構築等は、知識集約型の業務であると同時に労働集約的な面があり、事業拡大のためには一定水準以上のスキルを有する優秀な技術者の確保が不可欠なものと認識しております。現時点では、当社の人事制度・教育制度により、必要な技術者は確保されておりますが、労働市場の逼迫により当社が必要とする優秀な技術者または労働力を確保できない場合、または当社の従業員が大量に退職した場合には、当社の事業展開が制約される可能性を有しております。

また、当社は業務上必要に応じて、協力会社に外注しておりますが、この結果、外注比率が高くなる傾向があります。現状では、有力な協力会社と長期的かつ安定的な取引関係を保っておりますが、協力会社において質・量(技術力および技術者数)が確保できない場合は、当社の事業運営に支障をきたすことが考えられ、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 法的規制等について

当社は、労働者派遣法に基づき、平成16年4月1日に一般労働者派遣事業の認可(許可番号 般23-300001)を得ております。なお、一般労働者派遣事業は労働者派遣法第6条の欠格事項が設けられており、この欠格事項に該当するときは、事業の許可が取り消されるか、事業の停止となる旨が定められております。

当社は法令を遵守し、事業を運営しておりますが、万一法令違反に該当するような場合、または法的な規制が変更等になった場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。また、許可の有効期限の満了後、許可が更新されない場合においても一般労働者派遣事業ができないこととなり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 個人情報の管理について

高度情報化社会の進展に伴い、個人情報の保護は極めて重要な問題となっております。企業が取り扱う機密情報や個人情報について、情報管理が不十分であると会社経営に重大な影響を与える可能性があることを認識しております。

当社は、システム開発事業において、取引先の顧客データを取り扱うことがある事業環境にありますので、顧客の安全性・信頼性に重点を置いた政策をとり、ISO9001に準拠した品質重視の開発・運用の推進、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)認証取得企業として、情報セキュリティ対策の強化に取り組んでおります。

しかしながら、今後、不測の事態により、顧客情報や従業員の個人情報が外部へ漏洩するような事態となった場合には、社会的な信用等を失墜させることになり当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当連結会計年度の研究開発活動は、オープンシステム化およびネットワーク化に対応すべき技術を整理し、技術研究を行うとともに、社内への技術移転を目的とした研究を実施しております。

これらの研究開発活動は、経営管理部情報システムグループを中心に、(1) 工事進行基準会計システムの運用フォロー、(2) 情報インフラ改善と信頼性の向上、(3) 社内システムの維持・管理などに取り組んでおります。

これらに係る研究開発費の金額は18,076千円であります。

なお、当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

資産の部

当連結会計年度末の流動資産は3,661,969千円であり、前連結会計年度末に比べ33,325千円減少しました。主な要因は、現金及び預金が102,030千円増加、仕掛品が69,386千円増加した一方、受取手形及び売掛金が215,136千円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末の固定資産は1,769,680千円であり、前連結会計年度末に比べ44,931千円減少しました。主な要因は、新社内システムの減価償却によりソフトウェアが29,024千円減少したこと、および建物及び構築物が減価償却により22,127千円減少したことによるものであります。

負債の部

当連結会計年度末の流動負債は2,111,279千円であり、前連結会計年度末に比べ83,657千円減少しました。主な要因は、賞与引当金が37,945千円増加した一方、買掛金が105,032千円減少、および未払法人税等が68,889千円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末の固定負債は907,785千円であり、前連結会計年度末に比べ122,892千円減少しました。主な要因は、運転資金等の返済により長期借入金が123,568千円減少したことによるものであります。

純資産の部

当連結会計年度末の純資産は、2,412,585千円であり、前連結会計年度末に比べ128,293千円増加しました。主な要因は、利益剰余金が122,331千円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は44.3%（前連結会計年度末は41.4%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況の分析

営業活動におけるキャッシュ・フローにつきましては、前連結会計年度に比べ83,098千円減少し、446,547千円の資金獲得となりました。この主な要因は、税金等調整前当期純利益364,015千円（前年同期比44,582千円増）や売上債権の減少額222,801千円（前年同期比227,951千円増）が、法人税等の支払額224,931千円（前年同期比207,196千円減）や仕入債務の減少額104,753千円（前年同期比82,695千円減）を上回ったことによるものであります。

投資活動におけるキャッシュ・フローにつきましては、前連結会計年度に比べ332,716千円増加し、76,763千円の資金使用となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出16,490千円（前年同期比334,813千円増）および無形固定資産の取得による支出60,288千円（前年同期比2,218千円減）によるものであります。

財務活動におけるキャッシュ・フローにつきましては、前連結会計年度に比べ255,267千円減少し、267,756千円の資金支出となりました。この主な要因は、長・短期借入れの返済による支出1,814,356千円（前年同期比34,592千円増）や配当金の支払額104,489千円（前年同期比2千円増）が、長・短期借入れによる収入1,650,000千円（前年同期比300,000千円減）を上回ったことによるものであります。

これらの活動の結果、現金及び現金同等物の期末残高は102,026千円増加し、1,775,914千円となりました。

(3) 経営成績の分析

売上高

当連結会計年度は、当社グループの主要顧客におけるIT投資が徐々に回復した結果、前連結会計年度に比べ437,764千円増加し、7,629,817千円となりました。

売上原価

当連結会計年度は、受注の増加に伴う労務費の増加および外注委託による開発が増加したことにより、前連結会計年度に比べ336,918千円増加し、6,039,512千円となりました。

販売費及び一般管理費

当連結会計年度は、新卒採用活動の強化による募集費の増加、および減価償却費の増加により、前連結会計年度に比べ39,165千円増加し、1,218,163千円となりました。

営業外収益、営業外費用

営業外収益においては、助成金収入6,047千円を計上し、11,119千円となりました。一方営業外費用においては、支払利息が前連結会計年度に比べ2,342千円減少し、18,712千円となりました。

特別利益、特別損失

特別損失で、固定資産除却損487千円、その他46千円を計上しております。

当期純利益

税金等調整前当期純利益は前連結会計年度に比べ44,582千円増加し、364,015千円となり、税効果会計適用後の法人税等負担額は前連結会計年度に比べ11,374千円減少し、137,866千円となりました。その結果、当連結会計年度における当期純利益は前連結会計年度に比べ56,628千円増加し、226,820千円となりました。

また、当社の重要な経営指標である自己資本当期純利益率（ROE）は、売上高の回復により利益高も増加したことに伴い、9.6%（前連結会計年度は7.5%）となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）における設備投資については、総額92,566千円であり、主な内容は販売目的ソフトウェア開発37,620千円および社内用ソフトウェア開発21,120千円ならびに技術センター改修工事11,703千円であります。

なお、当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					合計	従業員数 (名)
		建物 及び構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積㎡)	ソフト ウェア	リース 資産		
本社 (名古屋市中村区)	統括業務 設備	460,297	12,550	169,649 (680)	58,782		701,279	397
情報センター (名古屋市中村区)	統括業務 設備	23,613	1,590	96,510 (245)	149,459		271,173	10
開発センター (名古屋市中村区)	受託開発 設備	68,822	417	148,815 (741)			218,054	22
技術センター (名古屋市中村区)	受託開発 設備	33,952	46	125,687 (252)			159,686	
厚生施設 (東京都葛飾区)	寮・社宅			64,144 (112)			64,144	
東京支店 (東京都豊島区)	受託開発 設備	26,063	321	()	1,085		27,470	103
大阪支店 (大阪市西区)	受託開発 設備	2,497	190	()			2,687	93

(注) 1 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントのため、セグメントの名称については省略しております。

2 金額には消費税等は含まれておりません。

3 東京支店および大阪支店は、建物を賃借しております。年間賃借料は合わせて37,357千円であります。

4 現在休止中の設備はありません。

5 従業員数は就業人員であります。

(2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)				合計	従業員数 (名)
			建物 及び構築物	車両運搬具	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア		
イリイ(株)	本社 (東京都文京区)	統括業務設備	2,897	997	6,154	55,623	65,672	59
(株)ソエル	本社 (岐阜県大垣市)	統括業務設備						7

(注) 1 当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントのため、セグメントの名称については省略しております。

2 金額には消費税等は含まれておりません。

3 本社は、建物を賃借しております。年間賃借料はイリイ(株)22,129千円、(株)ソエル211千円であります。

4 現在休止中の設備はありません。

5 従業員数は就業人員であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,800,000
計	6,800,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,090,000	2,090,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、単元株式数は100株であります。
計	2,090,000	2,090,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年6月20日 (注)	150,000	2,090,000	72,750	550,150	72,750	517,550

(注) 有償第三者割当：発行価格970円 資本組入額485円
主な割当先：東芝ソリューション(株)、(株)豊通シスコム

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		6	11	13	1		1,264	1,295	
所有株式数(単元)		521	209	2,168	3		17,994	20,895	500
所有株式数の割合(%)		2.49	1.01	10.37	0.01		86.12	100.00	

(注) 自己株式209株は、「個人その他」に2単元、「単元未満株式の状況」に9株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
山田敏行	愛知県一宮市	388,500	18.58
システムリサーチ従業員持株会	名古屋市中村区岩塚本通二丁目12番	193,916	9.27
伊藤範久	三重県員弁郡東員町	149,200	7.13
東芝ソリューション株式会社	東京都港区芝浦一丁目1番1号	100,000	4.78
布目秀樹	名古屋市中川区	77,800	3.72
株式会社豊通シスコム	名古屋市中村区名駅四丁目5番28号	50,000	2.39
大澤日出巳	愛知県瀬戸市	45,800	2.19
久保田信治	奈良県生駒市	32,800	1.56
有限会社福田製作所	富山県小矢部市谷坪野618	30,000	1.43
山田美代子	愛知県一宮市	28,800	1.37
計		1,096,816	52.47

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,089,300	20,893	
単元未満株式	普通株式 500		
発行済株式総数	2,090,000		
総株主の議決権		20,893	

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社システムリサーチ	名古屋市中村区岩塚本通二丁目12番	200		200	0.0
計		200		200	0.0

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式		
当期間における取得自己株式	29	46

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	209		238	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

株主への配当につきましては、当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を維持していくことを念頭におき、当期の収益状況や今後の見通し、配当性向などを総合的に勘案して決定すべきものと考えております。

剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としており、期末配当の決定機関は株主総会でありま

す。当事業年度の剰余金の配当につきましては、継続的な安定配当の基本方針のもと、1株当たり50円（配当性向54.4%）としております。

なお、当社は取締役会の決議により、中間配当を行うことができる旨を定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年6月26日 定時株主総会決議	104,489	50

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	1,250	1,065	953	1,200	1,375
最低(円)	610	590	749	770	897

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	1,100	1,070	1,123	1,365	1,360	1,375
最低(円)	1,000	1,022	1,037	1,120	1,237	1,236

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		山田 敏行	昭和24年4月12日生	昭和44年10月 阪神計算センター株式会社 入社 昭和45年7月 コンピューターサービス株式会社 (現 S C S K株)入社 昭和56年3月 当社設立 代表取締役社長に就任(現)	(注)2	388,500
取締役	システム開発1部、システム開発2部、システム開発3部、大阪支店担当	布目 秀樹	昭和28年5月18日生	昭和49年9月 コンピューターサービス株式会社 (現 S C S K株)入社 昭和56年9月 当社入社 平成10年4月 システム開発部ゼネラルマネージャー 平成12年6月 執行役員に就任 平成17年2月 取締役に就任(現) 平成19年7月 システム開発1部、システム開発2部、大阪支店、新事業推進部担当 平成25年4月 システム開発1部、システム開発2部、システム開発3部、大阪支店担当(現)	(注)2	77,800
取締役	経営管理部、事務管理部担当	安藤 正実	昭和34年3月10日生	昭和53年4月 コンピューターサービス株式会社 (現 S C S K株)入社 昭和56年8月 当社入社 平成10年4月 特定業種システム開発部ゼネラルマネージャー 平成11年4月 特定業種システム開発部兼新事業推進部ゼネラルマネージャー 平成12年6月 取締役に就任(現) 平成15年4月 経営管理室ゼネラルマネージャー 平成19年4月 経営管理部ゼネラルマネージャー 平成24年4月 経営管理部、事務管理部担当(現)	(注)2	9,072
取締役	システム技術1部、システム技術2部、東京支店担当	平山 宏	昭和34年11月20日生	昭和54年4月 株式会社小泉屋 入社 昭和59年4月 日本インテリジェント・ターミナル株式会社 入社 昭和59年8月 当社入社 平成10年4月 システム技術部ゼネラルマネージャー 平成12年6月 執行役員に就任 平成17年2月 取締役に就任(現) 平成18年4月 システム技術1部、システム技術2部、東京支店担当(現)	(注)2	11,932
取締役	経理部ゼネラルマネージャー	上田 美代子	昭和25年9月20日生	昭和43年4月 大垣信用金庫 入社 昭和48年7月 コンピューターサービス株式会社 (現 S C S K株)入社 昭和59年7月 当社入社 平成12年6月 執行役員に就任 平成14年4月 経理部ゼネラルマネージャー(現) 平成17年2月 取締役に就任(現)	(注)2	21,120
常勤監査役		川口 士郎	昭和22年7月27日生	昭和41年4月 株式会社日本ビジネスコンサルタント(現 株)日立システムズ) 入社 昭和54年1月 セントラルシステムズ株式会社 (現 T I S株)入社 昭和57年4月 株式会社セントラルインフォメーションシステム(現 株)シーアイエス) 出向 昭和63年2月 同社転籍入社(営業統括部長) 平成15年7月 同社執行役員企画管理本部長兼経理部長 平成20年3月 同社退社 平成20年6月 当社監査役に就任(現)	(注)3	6,900

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)	
監査役		増田 英雄	昭和14年10月22日生	昭和38年4月 昭和56年9月 昭和61年9月 平成元年5月 平成12年3月 平成12年6月	カゴメ株式会社 入社 経理部税務会計担当マネージャー 東京支店総務担当マネージャー 経理部財務担当マネージャー 同社退社 当社監査役に就任(現)	(注)4	5,800	
監査役		高亀 義明	昭和16年1月25日生	昭和38年4月 昭和63年6月 平成7年1月 平成7年2月 平成11年10月 平成19年6月	株式会社協和銀行 入行 協和中小事業投資株式会社 入社 同社退社 有限会社青山経営研究所主任研究員(現) 当社入社・内部監査室室長 監査役に就任(現)	(注)4	7,100	
監査役		西河 直	昭和23年12月12日生	昭和46年4月 平成10年3月 平成14年7月 平成15年7月 平成17年6月 平成18年7月 平成21年6月 平成21年9月 平成23年6月	豊田通商株式会社 入社 経営企画室部長格 株式会社豊通シスコム出向 同社取締役 同社へ転籍 同社執行役員(東京支店長) 同社退社、囑託 同社テクノセンター長 当社監査役に就任(現)	(注)4		
計								528,224

(注)1 監査役川口士郎および監査役増田英雄ならびに監査役西河直は社外監査役であります。

- 2 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 取締役布目秀樹は、代表取締役社長山田敏行の実弟であります。
- 6 当社は、執行役員制度を導入しております。執行役員は1名で、企画広報室ゼネラルマネージャー小池貴司であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業価値の向上に向けて、経営環境の変化に適切に対処するため迅速な意思決定を行うこと、経営監査機能を強化すること、コンプライアンスを徹底すること、行動憲章に定めた反社会的勢力との関係を遮断する毅然とした姿勢を貫くこと、株主・取引先・従業員等のステークホルダーに迅速かつ適切な情報開示を徹底するという基本方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの充実を図ってまいります。

企業統治の体制

A 企業統治の体制の概要およびその体制を採用する理由

取締役会は、効率的かつ機動的な経営を行うため、常勤取締役5名で構成され、会社の重要な業務執行の決定および個々の取締役の職務執行の監督を行っております。取締役会は毎月1回開催される定例取締役会のほか、迅速な意識決定を図るため、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。取締役会には監査役出席の下、経営全般および業績の進捗状況の報告、会社の重要事項について意思決定を行っております。

また、当社は、コーポレート・ガバナンスを強化し、業務執行体制の強化等を図るため、執行役員制度を導入しております。

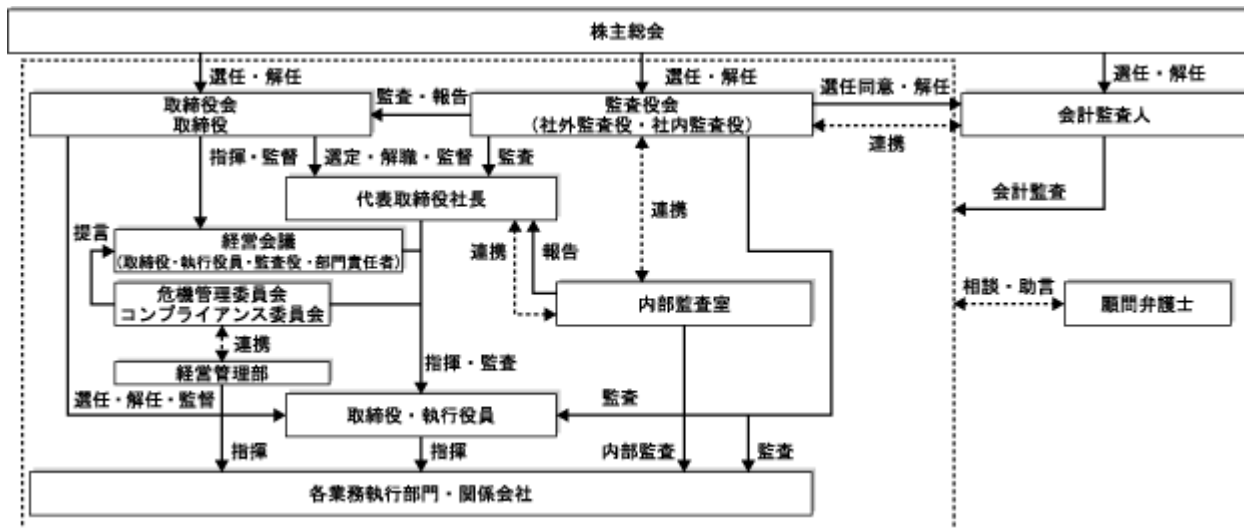
この他に、全社が一体として事業の円滑かつ合理的な遂行を行うために必要な議論および情報の共有を目的として、取締役、執行役員および監査役ならびに各部門の責任者が出席する「経営会議」を毎月1回開催し、経営方針の伝達、利益計画および各案件の進捗状況の報告を受けております。

監査役会は、監査役4名で構成されており、各取締役の職務執行を監督・監査するほか、業務の適法性や効率性、公正性の検証等を実施し、会社の内部統制が有効に機能するよう努めております。また、監査役の機能強化のため、このうち3名は社外監査役（うち2名（川口士郎、増田英雄）を取引所に対し、独立役員として届け出ております。）であり、独立した立場から助言、提言等を行っております。

なお、取締役の定数について7名以内とする旨を定款で定めており、取締役の選任決

議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行うこととしております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないこととしております。

B コーポレート・ガバナンス体制の模式図



C 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムに関する基本的な考え方およびその整備状況は以下のとおりです。

a) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務執行に係る文書、その他の情報については、「文書管理規程」および情報セキュリティマネジメントシステム(I S M S)における運用ルール等に基づき、適切に保管および管理を行うものとする。

b) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

企業経営の中で考えられるリスクについては、「コンプライアンス管理規程」「危機管理規程」「内部監査規程」等の社内規程および情報セキュリティマネジメントシステム(I S M S)における運用ルール等を整備するとともに、必要な教育・訓練を実施し、組織横断的な監視を可能にする体制を構築する。

また、内部監査室は、全社的なリスク管理体制の構築・運用状況についての内部監査を実施し、その内容を代表取締役社長に報告する。

c) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための基礎として、定例取締役会(毎月1回)を開催し、年度経営計画・中期経営計画に基づく予算管理・重要事項の決定ならびに取締役の職務の執行を監督する。また、取締役会の監督機能強化を目的として、取締役会には監査役も出席する。確認した経営計画の進捗により、必要に応じ、対応策の検討や見直しを行う。

d) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

取締役および使用人(以下、「従業員」という)の法令・定款および企業倫理の遵守を徹底するため、事務管理部担当役員の下に法務担当者を置くとともに、「コンプライアンス管理規程」を設定し、コンプライアンスの維持・向上を図り、取締役および従業員に対する教育・研修を実施する。

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で組織的に対応するものとし、反社会的勢力との取引関係の排除、その他一切の関係を排除する。また、事務管理部において、警察・弁護士等の外部機関や関連団体との信頼関係の構築と情報交換等を行うことで、反社会的勢力排除に係る連携体制を維持する。

また、コンプライアンス違反および疑義がある行為については、「内部通報制度運用規程」を設定し、これに沿った運用を行うとともに、通報者の立場を守る。法務担当者は、上記取組みをサポートするとともに、必要に応じ顧問弁護士等の相談窓口を整備する。

e) 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

関係会社の指導および育成を図り、グループとしての方針の一元化・経営効率の向上を目的とし「関係会社管理規程」を設定し、これに定める各管理項目については、それぞれの担当部門の立場で管理・支援・指導を行い、事務管理部担当役員は全体を統括する。

内部監査室は、当社における子会社管理状態について内部監査を実施するとともに、その結果、子会社での直接確認が必要と判断した場合には、子会社に出向き、協力を得たうえで、必要事項の実態を調査し、その結果を当社代表取締役社長に報告するものとする。

f) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役が必要とした場合、監査業務の支援のために補助すべき従業員をおくことができる。この従業員の決定に関しては、事前に監査役と協議のうえ、取締役会にて指名するものとする。

g) 監査役職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、指名された従業員に補助が必要な重要事項の指示命令ができるものとし、監査役から監査業務に必要な指示命令を受けた従業員は、取締役の指示命令を受けないものとする。

h) 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制

取締役および従業員は、当社グループに重大な影響を及ぼす恐れのある事項および不正行為や重要な法令・定款違反行為を知りえた場合、「内部通報制度運用規程」に基づき、その内容をただちに報告するものとする。また、「コンプライアンス管理規程」に基づき、同規程に違反する事実を知りえた場合も上記と同様とする。

上記について、監査役はいつでも必要に応じて、取締役および従業員に対して報告を求めることができる。

i) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、「監査役会規則」「監査役監査基準」に基づく権限を持ち独立性を確立するとともに、内部監査室・会計監査人との緊密な連携を維持し、自らの監査の実効性を確保する。

また、監査役は代表取締役社長および取締役との定期的な意見交換会を開催する。

D リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制の全体の仕組みについては経営管理部が所管しております。リスク顕在化の回避、企業価値の最大化を図ると同時に、クライシスコントロールによるリスク顕在化の適切な対応、再発防止に努め損害の極小化を図ることを目的としております。

また、各部門は事務管理部と協力して顧客情報管理と自社情報管理のためセキュリティガイドラインを遵守し、協力会社を含めた情報管理の徹底を図っております。

E 責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役との間において、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任限度額は法令が定める最低限度額となります。

F 取締役および監査役の責任免除

当社は、取締役および監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定に基づき取締役会の決議によって取締役（取締役であった者を含む）および監査役（監査役であった者を含む）の同法第423条第1項の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

G 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使できる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

H 自己株取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定に従い、取締役会の決議により、市場取引等による自己株式の取得を行うことができる旨定款で定めております。これは、機動的な資本政策を可能とすることを目的とするものであります。

I 中間配当について

当社は、将来の配当政策の転換に備えるため、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款において定めております。

内部監査および監査役監査

A 内部監査

内部監査を担当する社長直轄の専従組織として、内部監査室(1名)を設置し、内部監査規程および年間監査計画、監査実施計画に基づき、経営の効率性やコンプライアンス状況等の監査を実施し、監査結果を社長、監査役および被監査部門に報告、通知するとともに、是正措置の実行を求め、適宜、調査確認を行っております。また、内部監査室専従者は、長年にわたる大手企業の財務経理システムの開発経験を重ねてきており、システム監査等に関する相当程度の知見を有しております。

B 監査役監査

各監査役は、取締役会その他の重要会議に出席し、客観的な視点で経営の適法性、効率性および公正性に関する助言や提言を行うとともに、取締役の業務執行および各部門の業務遂行につき監査を行っております。

監査役会は原則月に一度もしくは必要に応じて随時開催し、監査方針・年間監査計画に基づき監査を実施しております。また、監査役増田英雄は、長年にわたり当社以外の上場会社の経理の経験を重ねてきており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。監査役高亀義明は、長年にわたる銀行業務により数多くの企業分析および経営指導を重ねてきており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。監査役川口士郎および西河直は、会社経営等に係る豊富な経験および幅広い見識を有しております。

C 相互連携

監査役、内部監査室および会計監査人の間では、それぞれが行う監査の計画、進捗および結果を報告、説明する等、相互の情報および意見の交換を行っております。

D 内部統制部門との関係

監査結果については、内部監査室を通じて内部統制部門の責任者に対して適宜報告されております。また、監査役は、内部監査室に対して、内部統制システムに係る状況とその監査結果の報告を求め、必要に応じて内部監査室に対して調査を求めています。

内部監査室は、社長直轄の専従組織として他部門からの指揮命令系統から外れ独立性が確保されております。監査役においても独立の機関である監査役会の構成員として独立性が確保されております。

社外取締役および社外監査役

当社は、社外監査役を3名選任しております。

社外監査役川口士郎は、IT関連の職務経験および企業の役員経験があり、幅広い知識と豊富な知見を有していることから社外監査役としての監査機能および役割を果たすことができるものと考えております。なお、川口士郎は平成25年3月末時点において、当社の株式6,900株を保有しております。当社と川口士郎の間には、それ以外の人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。また、川口士郎は過去において株式会社シーアイエスの取締役であったことがありますが、当社と株式会社シーアイエスとの間に、人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役増田英雄は、大手食品会社の職務経験および経理・財務・税務の経験があり、幅広い知識と豊富な知見を有していることから社外監査役としての監査機能および役割を果たすことができるものと考えております。なお、増田英雄は平成25年3月末時点において、当社の株式5,800株を保有しております。当社と増田英雄の間には、それ以外の人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役西河直は、IT関連の職務経験および企業の役員経験があり、幅広い知識と豊富な知見を有していることから社外監査役としての監査機能および役割を果たすことができるものと考えております。なお、当社と西河直の間には人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。西河直は過去において株式会社豊通シスコムの取締役であったことがありますが、当社と株式会社豊通シスコムとの間には、同社が当社株式の2.39%を保有する資本関係にあります。また、当社と株式会社豊通シスコムとの間には販売取引があり、平成25年3月期における連結売上高に占める割合は5.7%であります。その他当社と株式会社豊通シスコムおよびその関係会社との間に人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、コーポレート・ガバナンスにおいて外部から客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、取締役による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役4名中3名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。社外監査役は、監査体制の独立性を高め、客観的な立場から監査意見を表明することで、当社の企業統治の有効性に大きく寄与しているものと考えております。

また、当社は、社外取締役を選任しておりません。社外監査役による外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。また、社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的な監査という機能および役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として選任しております。

なお、社外監査役による監査と内部監査、監査役監査および会計監査との相互連携ならびに内部統制部門との関係につきましては、取締役会、監査役会および危機管理委員会ならびにコンプライアンス委員会において適宜報告および意見交換がなされております。

会計監査の状況

会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名および継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員	秦 博文	新日本有限責任監査法人
業務執行社員	水 野 大	

- (注) 1 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。
2 同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。
3 監査業務にかかる補助者の構成は、公認会計士7名、その他4名であります。

役員報酬等

A 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の数

役員区分	報酬等の総額(千円)	基本報酬(千円)	対象となる役員の数(人)
取締役	90,000	90,000	5
監査役 (社外監査役を除く)	2,400	2,400	1
社外役員	12,000	12,000	3

B 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

C 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

D 役員報酬等の額の決定に関する方針

株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、経営内容、世間相場等を勘案のうえ、取締役の報酬は取締役会の決議により決定し、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

A 保有株式が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数：6銘柄

貸借対照表計上額の合計額：20,594千円

B 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
カゴメ㈱	4,000	6,480	企業間取引の強化
㈱りそなホールディングス	8,000	3,048	企業間取引の強化
㈱十六銀行	10,000	2,850	企業間取引の強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
カゴメ㈱	4,000	7,140	企業間取引の強化
㈱りそなホールディングス	8,000	3,904	企業間取引の強化
㈱十六銀行	10,000	3,860	企業間取引の強化

C 保有目的が純投資目的の投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	22,000	333	21,000	
連結子会社				
計	22,000	333	21,000	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、国際財務報告基準の適用に関する助言業務であります。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1．連結財務諸表および財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等に係る情報が遺漏無く入手できる環境を確保しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,709,075	1,811,106
受取手形及び売掛金	1,727,720	1,512,584
商品及び製品	3,486	7,845
仕掛品	43,970	113,356
貯蔵品	4,659	4,952
繰延税金資産	158,935	172,511
その他	47,615	39,763
貸倒引当金	169	150
流動資産合計	3,695,294	3,661,969
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	904,722	915,740
減価償却累計額	264,450	297,596
建物及び構築物（純額）	640,271	618,144
土地	604,806	604,806
リース資産	30,401	-
減価償却累計額	27,996	-
リース資産（純額）	2,404	-
その他	92,329	94,547
減価償却累計額	70,031	72,278
その他（純額）	22,297	22,268
有形固定資産合計	1,269,780	1,245,219
無形固定資産		
ソフトウェア	296,933	267,909
リース資産	1,506	-
その他	8,997	8,810
無形固定資産合計	307,437	276,719
投資その他の資産		
投資有価証券	18,068	20,594
繰延税金資産	61,732	65,091
その他	157,592	162,055
投資その他の資産合計	237,393	247,741
固定資産合計	1,814,611	1,769,680
資産合計	5,509,906	5,431,650

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	367,269	262,236
1年内返済予定の長期借入金	807,566	766,778
リース債務	3,911	-
未払法人税等	147,164	78,275
賞与引当金	350,688	388,634
受注損失引当金	-	1 3,894
その他	518,337	611,460
流動負債合計	2,194,937	2,111,279
固定負債		
長期借入金	818,769	695,201
退職給付引当金	192,981	198,619
長期未払金	18,926	13,965
固定負債合計	1,030,677	907,785
負債合計	3,225,614	3,019,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	550,150	550,150
資本剰余金	517,550	517,550
利益剰余金	1,214,396	1,336,727
自己株式	180	180
株主資本合計	2,281,915	2,404,246
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,375	4,010
その他の包括利益累計額合計	2,375	4,010
少数株主持分	-	4,328
純資産合計	2,284,291	2,412,585
負債純資産合計	5,509,906	5,431,650

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高	7,192,053	7,629,817
売上原価	5,702,594	4 6,039,512
売上総利益	1,489,459	1,590,305
販売費及び一般管理費	1,178,997	1, 2 1,218,163
営業利益	310,461	372,141
営業外収益		
受取利息	38	38
受取配当金	226	238
助成金収入	23,680	6,047
保険配当金	1,314	2,403
受取手数料	746	1,182
その他	5,957	1,210
営業外収益合計	31,964	11,119
営業外費用		
支払利息	19,589	17,246
その他	384	1,465
営業外費用合計	19,974	18,712
経常利益	322,450	364,549
特別損失		
固定資産除却損	3 560	3 487
投資有価証券評価損	2,457	-
その他	-	46
特別損失合計	3,017	533
税金等調整前当期純利益	319,432	364,015
法人税、住民税及び事業税	171,651	155,692
法人税等調整額	22,410	17,826
法人税等合計	149,240	137,866
少数株主損益調整前当期純利益	170,191	226,149
少数株主損失()	-	671
当期純利益	170,191	226,820

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	170,191	226,149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	617	1,634
その他の包括利益合計	1 617	1 1,634
包括利益	170,809	227,783
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	170,809	228,455
少数株主に係る包括利益	-	671

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	550,150	550,150
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	550,150	550,150
資本剰余金		
当期首残高	517,550	517,550
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	517,550	517,550
利益剰余金		
当期首残高	1,148,696	1,214,396
当期変動額		
剰余金の配当	104,492	104,489
当期純利益	170,191	226,820
当期変動額合計	65,699	122,331
当期末残高	1,214,396	1,336,727
自己株式		
当期首残高	139	180
当期変動額		
自己株式の取得	41	-
当期変動額合計	41	-
当期末残高	180	180
株主資本合計		
当期首残高	2,216,257	2,281,915
当期変動額		
剰余金の配当	104,492	104,489
当期純利益	170,191	226,820
自己株式の取得	41	-
当期変動額合計	65,658	122,331
当期末残高	2,281,915	2,404,246

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,758	2,375
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	617	1,634
当期変動額合計	617	1,634
当期末残高	2,375	4,010
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,758	2,375
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	617	1,634
当期変動額合計	617	1,634
当期末残高	2,375	4,010
少数株主持分		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	4,328
当期変動額合計	-	4,328
当期末残高	-	4,328
純資産合計		
当期首残高	2,218,015	2,284,291
当期変動額		
剰余金の配当	104,492	104,489
当期純利益	170,191	226,820
自己株式の取得	41	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	617	5,962
当期変動額合計	66,275	128,293
当期末残高	2,284,291	2,412,585

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	319,432	364,015
減価償却費	92,389	147,795
のれん償却額	9,394	-
貸倒引当金の増減額（ は減少）	2	19
賞与引当金の増減額（ は減少）	37,129	37,945
受注損失引当金の増減額（ は減少）	-	3,894
退職給付引当金の増減額（ は減少）	8,475	5,637
受取利息及び受取配当金	264	277
支払利息	19,589	17,246
固定資産除却損	560	487
投資有価証券評価損益（ は益）	2,457	-
売上債権の増減額（ は増加）	5,149	222,801
たな卸資産の増減額（ は増加）	29,568	74,037
仕入債務の増減額（ は減少）	22,058	104,753
その他の資産の増減額（ は増加）	10,559	3,263
その他の負債の増減額（ は減少）	85,637	64,304
小計	566,602	688,306
利息及び配当金の受取額	265	277
利息の支払額	19,487	17,105
法人税等の支払額又は還付額（ は支払）	17,734	224,931
営業活動によるキャッシュ・フロー	529,645	446,547
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	5	3
有形固定資産の取得による支出	351,304	16,490
有形固定資産の売却による収入	-	19
無形固定資産の取得による支出	58,070	60,288
出資金の払込による支出	100	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	409,480	76,763
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,000,000	900,000
短期借入金の返済による支出	1,000,000	900,000
長期借入れによる収入	950,000	750,000
長期借入金の返済による支出	848,948	914,356
少数株主からの払込みによる収入	-	5,000
リース債務の返済による支出	9,007	3,911
自己株式の取得による支出	41	-
配当金の支払額	104,492	104,489
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,489	267,756
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	107,675	102,026
現金及び現金同等物の期首残高	1,566,212	1,673,887
現金及び現金同等物の期末残高	1,673,887	1,775,914

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1．連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称 イリイ株式会社

株式会社ソエル

上記のうち、株式会社ソエルについては、当連結会計年度において新たに設立したことにより連結の範囲に含めております。

2．持分法の適用に関する事項

非連結子会社および関連会社はありませんので、該当事項はありません。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4．会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

a．商品・製品・仕掛品

個別法

b．貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)

定額法

建物以外

定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社および連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

無形固定資産(リース資産を除く)

市場販売目的のソフトウェア

残存有効期間(見込有効期間3年)に基づく均等配分額を下限とした、見込販売数量に基づく償却方法

自社利用のソフトウェア

社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

その他

定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権および破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末時点で将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失を合理的に見積もることが可能なものについては、損失見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるプロジェクト

工事進行基準(プロジェクトの進捗率の見積りは原価比例法)

その他のプロジェクト

工事完成基準

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜処理を採用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点および国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務および勤務費用の計算方法ならびに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務および勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含まれていた「保険配当金」および「受取手数料」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた8,019千円は、「保険配当金」1,314千円、「受取手数料」746千円、「その他」5,957千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

- 1 損失が見込まれるソフトウェア開発契約に係るたな卸資産と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

受注損失引当金に対応するたな卸資産の額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
仕掛品		16,227千円

(連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費の主要な費目および金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
役員報酬	132,600千円	128,700千円
給与手当	430,071千円	430,610千円
賞与引当金繰入額	56,110千円	69,654千円
退職給付費用	15,503千円	14,952千円

- 2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
一般管理費	19,124千円	18,076千円

- 3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
建物及び構築物	147千円	232千円
工具、器具及び備品	358千円	254千円
ソフトウェア	54千円	
計	560千円	487千円

- 4 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
受注損失引当金繰入額		3,894千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	712千円	2,526千円
組替調整額	-	
税効果調整前	712千円	2,526千円
税効果額	94千円	891千円
その他有価証券評価差額金	617千円	1,634千円
その他の包括利益合計	617千円	1,634千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,090,000			2,090,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	157	52		209

(注) 普通株式の自己株式の増加52株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月22日 定時株主総会	普通株式	104,492	50.00	平成23年 3月31日	平成23年 6月23日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	104,489	50.00	平成24年 3月31日	平成24年 6月27日

当連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,090,000			2,090,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	209			209

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 6月26日 定時株主総会	普通株式	104,489	50.00	平成24年 3月31日	平成24年 6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年 6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	104,489	50.00	平成25年 3月31日	平成25年 6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金	1,709,075千円	1,811,106千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	35,188千円	35,192千円
現金及び現金同等物	1,673,887千円	1,775,914千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、S Iサービス業務およびソフトウェア開発業務における開発用機器であります。

・無形固定資産

主として、S Iサービス業務およびソフトウェア開発業務における開発用ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理取扱要領に従い、取引先ごとの期日管理および残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を年毎に把握する体制を整えております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価を取締役会にて報告しております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、支払金利の変動リスクを回避し、支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ取引）をヘッジ手段として利用することがあります。なお、同取引は当連結会計年度において該当事項はありません。

デリバティブ取引（金利スワップ取引）の執行・管理につきましては、取引権限を定めた社内規程に従って行い、また、金利スワップの利用に当たっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行うものとしております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理をしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,709,075	1,709,075	
(2) 受取手形及び売掛金	1,727,720	1,727,720	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	12,378	12,378	
資産計	3,449,174	3,449,174	
(1) 買掛金	367,269	367,269	
(2) 長期借入金	1,626,335	1,629,839	3,504
負債計	1,993,604	1,997,108	3,504

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,811,106	1,811,106	
(2) 受取手形及び売掛金	1,512,584	1,512,584	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	14,904	14,904	
資産計	3,338,594	3,338,594	
(1) 買掛金	262,236	262,236	
(2) 長期借入金	1,461,979	1,464,882	2,903
負債計	1,724,215	1,727,119	2,903

(注1) 金融商品の時価の算定方法および有価証券に関する事項

資産

- (1) 現金及び預金、ならびに (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

- (1) 買掛金

買掛金については、すべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (2) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
非上場株式	5,690	5,690

上記については市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローも見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権および満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,709,075	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,727,720	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの	-	-	-	-
合計	3,436,796	-	-	-

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,811,106			
受取手形及び売掛金	1,512,584			
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
合計	3,323,690			

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	807,566	517,050	256,719	45,000	-	-
合計	807,566	517,050	256,719	45,000	-	-

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	766,778	506,447	188,754			
合計	766,778	506,447	188,754			

[次へ](#)

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	9,330	5,657	3,672
債券			
その他			
小計	9,330	5,657	3,672
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	3,048	3,048	
債券			
その他			
小計	3,048	3,048	
合計	12,378	8,705	3,672

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	14,904	8,705	6,198
債券			
その他			
小計	14,904	8,705	6,198
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式			
債券			
その他			
小計			
合計	14,904	8,705	6,198

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度および退職一時金制度を設けております。
また、連結子会社は、退職金前払制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務	726,847千円	881,622千円
(2) 年金資産	511,415千円	630,305千円
(3) 未積立退職給付債務 ((1) + (2))	215,432千円	251,317千円
(4) 未認識数理計算上の差異	22,451千円	52,698千円
(5) 未確認過去勤務債務 (は債務の減額)	-	-
(6) 退職給付引当金 ((3) + (4) + (5))	192,981千円	198,619千円

(注) 連結子会社につきましては、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
(1) 勤務費用	75,860千円	75,744千円
(2) 利息費用	13,201千円	14,088千円
(3) 期待運用収益	4,649千円	5,114千円
(4) 過去勤務債務の費用処理額 (は費用の減額)	-	-
(5) 数理計算上の差異の費用処理額 (は費用の減額)	6,324千円	2,921千円
(6) 退職給付費用 ((1) + (2) + (3) + (4) + (5))	90,737千円	87,640千円

(注) 簡便法を採用しております連結子会社の退職給付費用は「(1)勤務費用」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
2.0%	1.2%

(注) 期首時点の計算において適用した割引率は2.0%ですが、期末時点において再検討を行った結果、割引率の変更により退職給付債務の額に影響を及ぼすと判断し、割引率を1.2%に変更しております。

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1.0%	1.0%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

10年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により翌連結会計年度から費用処理する方法)

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生的主要原因別内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	12,329千円	8,511千円
貸倒引当金	63千円	56千円
賞与引当金	132,273千円	146,614千円
退職給付引当金	68,680千円	70,547千円
長期未払金	6,738千円	4,971千円
投資有価証券評価損	2,582千円	2,582千円
未払法定福利費	17,528千円	20,660千円
繰越欠損金	24,950千円	12,694千円
その他	8,762千円	8,540千円
繰延税金資産小計	273,910千円	275,179千円
評価性引当額	51,945千円	35,388千円
繰延税金資産合計	221,964千円	239,791千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,296千円	2,187千円
繰延税金負債合計	1,296千円	2,187千円
繰延税金資産純額	220,668千円	237,603千円

(注) 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれておりません。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	158,935千円	172,511千円
固定資産 - 繰延税金資産	61,732千円	65,091千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.6%	
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.3%	
のれん償却額	1.1%	
評価性引当額の減少額	2.8%	
住民税均等割	3.0%	
税務上の繰越欠損金の利用	2.1%	
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	6.6%	
その他	0.0%	
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	46.7%	

(注) 当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループはソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	SIサービス業務	ソフトウェア 開発業務	その他	合計
外部顧客への売上高	3,893,622	2,627,821	670,609	7,192,053

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)トヨタコミュニケーションシステム	893,317	ソフトウェア関連
東芝ソリューション(株)	747,059	ソフトウェア関連

当連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	SIサービス業務	ソフトウェア 開発業務	その他	合計
外部顧客への売上高	3,969,964	2,972,733	687,119	7,629,817

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)トヨタコミュニケーションシステム	1,074,451	ソフトウェア関連

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	1,093円07銭	1,152円39銭
1株当たり当期純利益金額	81円43銭	108円53銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
連結貸借対照表上の純資産の部の合計額(千円)	2,284,291	2,412,585
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		4,328
(うち少数株主持分(千円))	()	(4,328)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,284,291	2,408,256
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,089,791	2,089,791

3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
連結損益計算書上の当期純利益(千円)	170,191	226,820
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	170,191	226,820
普通株式の期中平均株式数(株)	2,089,795	2,089,791

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金	807,566	766,778	0.98	
1年以内に返済予定のリース債務	3,911			
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	818,769	695,201	0.89	平成26年4月1日～ 平成28年2月29日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)				
その他有利子負債				
合計	1,630,246	1,461,979		

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	506,447	188,754		

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,737,334	3,604,408	5,403,574	7,629,817
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (千円)	18,082	116,058	193,427	364,015
四半期(当期)純利益金額 (千円)	986	69,122	101,130	226,820
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	0.47	33.07	48.39	108.53

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	0.47	32.60	15.31	60.14

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,434,248	1,523,934
売掛金	1,578,544	1,328,309
商品	369	23
仕掛品	43,295	101,235
貯蔵品	4,659	4,952
前渡金	1,453	2,032
前払費用	20,343	24,031
繰延税金資産	158,935	164,151
その他	13,652	3,217
貸倒引当金	155	132
流動資産合計	3,255,347	3,151,756
固定資産		
有形固定資産		
建物	889,225	899,536
減価償却累計額	257,461	289,110
建物（純額）	631,764	610,425
構築物	10,005	10,005
減価償却累計額	4,192	5,184
構築物（純額）	5,813	4,821
工具、器具及び備品	49,488	49,000
減価償却累計額	32,277	33,882
工具、器具及び備品（純額）	17,210	15,117
土地	604,806	604,806
リース資産	30,401	-
減価償却累計額	27,996	-
リース資産（純額）	2,404	-
有形固定資産合計	1,262,000	1,235,170
無形固定資産		
ソフトウェア	240,258	212,368
リース資産	1,506	-
その他	5,185	4,998
無形固定資産合計	246,950	217,367
投資その他の資産		
投資有価証券	18,068	20,594
関係会社株式	336,330	351,330
出資金	100	100
長期前払費用	2,513	2,383
繰延税金資産	61,732	65,091
保険積立金	100,369	108,090
その他	25,702	25,760
投資その他の資産合計	544,816	573,349
固定資産合計	2,053,766	2,025,887
資産合計	5,309,114	5,177,643

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	350,634	242,588
1年内返済予定の長期借入金	797,546	758,028
リース債務	3,911	-
未払金	111,353	143,345
未払費用	135,071	146,514
未払法人税等	144,252	72,046
未払消費税等	39,725	65,451
前受金	818	-
預り金	67,426	76,242
前受収益	4,900	7,290
賞与引当金	329,222	355,544
受注損失引当金	-	1,667
流動負債合計	1,984,862	1,868,719
固定負債		
長期借入金	810,019	695,201
退職給付引当金	170,581	180,911
固定負債合計	980,600	876,112
負債合計	2,965,463	2,744,832
純資産の部		
株主資本		
資本金	550,150	550,150
資本剰余金		
資本準備金	517,550	517,550
資本剰余金合計	517,550	517,550
利益剰余金		
利益準備金	14,305	14,305
その他利益剰余金		
別途積立金	630,000	630,000
繰越利益剰余金	629,450	716,976
利益剰余金合計	1,273,755	1,361,281
自己株式	180	180
株主資本合計	2,341,274	2,428,800
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,375	4,010
評価・換算差額等合計	2,375	4,010
純資産合計	2,343,650	2,432,810
負債純資産合計	5,309,114	5,177,643

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高		
ソフトウェア売上高	6,483,414	6,877,309
ハードウェア売上高	15,908	31,827
売上高合計	6,499,323	6,909,137
売上原価		
ソフトウェア売上原価	5,362,221	4 5,670,794
ハードウェア売上原価	13,912	28,530
売上原価合計	5,376,134	5,699,325
売上総利益	1,123,188	1,209,811
販売費及び一般管理費	1, 2 842,705	1, 2 868,546
営業利益	280,483	341,264
営業外収益		
受取利息	31	31
受取配当金	226	238
助成金収入	23,680	6,047
保険配当金	1,211	2,403
その他	4,162	1,444
営業外収益合計	29,311	10,164
営業外費用		
支払利息	19,168	17,004
その他	120	1,057
営業外費用合計	19,288	18,061
経常利益	290,506	333,367
特別損失		
固定資産除却損	3 297	3 315
投資有価証券評価損	2,457	-
特別損失合計	2,755	315
税引前当期純利益	287,751	333,052
法人税、住民税及び事業税	169,742	150,503
法人税等調整額	22,410	9,466
法人税等合計	147,331	141,037
当期純利益	140,419	192,015

【売上原価明細書】

1. ソフトウェア売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	1	3,256,999	60.6	3,462,143	60.0
外注費		1,867,090	34.7	2,031,966	35.2
経費		250,347	4.7	274,507	4.8
当期総製造費用		5,374,437	100.0	5,768,617	100.0
期首仕掛品たな卸高		74,747		43,295	
合計		5,449,184		5,811,912	
期末仕掛品たな卸高		43,295		101,235	
他勘定振替高	2	49,061		49,136	
当期ソフトウェア製造原価		5,356,828		5,661,541	
ソフトウェア償却		5,393		6,874	
コンサルティング原価				712	
受注損失引当金繰入額				1,667	
ソフトウェア売上原価		5,362,221		5,670,794	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
賃借料	73,938	67,950
減価償却費	28,509	68,610
旅費交通費	61,130	56,409

2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
販売費及び一般管理費		
営業支援費振替高	27,796	17,346
無形固定資産		
ソフトウェア振替高	21,264	31,789
計	49,061	49,136

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、個別原価計算によっております。

2 . ハードウェア売上原価明細書

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
区分	注記 番号	金額(千円)	金額(千円)
期首商品たな卸高			369
当期商品仕入高		14,282	28,184
合計		14,282	28,553
期末商品たな卸高		369	23
ハードウェア売上原価		13,912	28,530

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	550,150	550,150
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	550,150	550,150
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	517,550	517,550
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	517,550	517,550
資本剰余金合計		
当期首残高	517,550	517,550
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	517,550	517,550
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	14,305	14,305
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	14,305	14,305
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	630,000	630,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	630,000	630,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	593,523	629,450
当期変動額		
剰余金の配当	104,492	104,489
当期純利益	140,419	192,015
当期変動額合計	35,926	87,525
当期末残高	629,450	716,976
利益剰余金合計		
当期首残高	1,237,828	1,273,755
当期変動額		
剰余金の配当	104,492	104,489
当期純利益	140,419	192,015
当期変動額合計	35,926	87,525
当期末残高	1,273,755	1,361,281
自己株式		
当期首残高	139	180
当期変動額		
自己株式の取得	41	-
当期変動額合計	41	-
当期末残高	180	180

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本合計		
当期首残高	2,305,389	2,341,274
当期変動額		
剰余金の配当	104,492	104,489
当期純利益	140,419	192,015
自己株式の取得	41	-
当期変動額合計	35,885	87,525
当期末残高	2,341,274	2,428,800
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,758	2,375
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	617	1,634
当期変動額合計	617	1,634
当期末残高	2,375	4,010
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,758	2,375
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	617	1,634
当期変動額合計	617	1,634
当期末残高	2,375	4,010
純資産合計		
当期首残高	2,307,147	2,343,650
当期変動額		
剰余金の配当	104,492	104,489
当期純利益	140,419	192,015
自己株式の取得	41	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	617	1,634
当期変動額合計	36,502	89,160
当期末残高	2,343,650	2,432,810

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価引下げの方法）を採用しております。

(1) 商品・仕掛品

個別法

(2) 貯蔵品

最終仕入原価法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)

定額法

建物以外

定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

市場販売目的のソフトウェア

残存有効期間(見込有効期間3年)に基づく均等配分額を下限とした、見込販売数量に基づく償却方法
自社利用のソフトウェア

社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

その他

定額法

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権および破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末時点で将来の損失が見込まれ、かつ、当該損失を合理的に見積もることが可能なものについては、損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務は、発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

5. 収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る収益および費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるプロジェクト

工事進行基準（プロジェクトの進捗率の見積りは原価比例法）

その他のプロジェクト

工事完成基準

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜処理を採用しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含まれていた「保険配当金」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた5,373千円は、「保険配当金」1,211千円、「その他」4,162千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

- 1 損失が見込まれるソフトウェア開発契約に係るたな卸資産と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

受注損失引当金に対応するたな卸資産の額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
仕掛品		7,767千円

(損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費の主なもののうち主要な費目および金額ならびにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
役員報酬	105,000千円	104,400千円
給与手当	298,849千円	309,575千円
賞与	59,951千円	59,816千円
法定福利費	60,466千円	66,882千円
賞与引当金繰入額	44,950千円	50,970千円
退職給付費用	11,550千円	11,235千円

おおよその割合

販売費	47%	50%
一般管理費	53%	50%

- 2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
一般管理費	15,933千円	18,076千円

- 3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
建物	147千円	232千円
工具、器具及び備品	96千円	82千円
ソフトウェア	54千円	
計	297千円	315千円

- 4 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
受注損失引当金繰入額		1,667千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	157	52		209

(注) 普通株式の自己株式の増加52株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

当事業年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	209			209

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

・有形固定資産

主として、S I サービス業務およびソフトウェア開発業務における開発用機器であります。

・無形固定資産

主として、S I サービス業務およびソフトウェア開発業務における開発用ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(有価証券関係)

子会社株式および関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式および関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
子会社株式	336,330	351,330
計	336,330	351,330

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	11,955千円	7,893千円
賞与引当金	124,116千円	134,040千円
退職給付引当金	60,706千円	64,209千円
投資有価証券評価損	2,582千円	2,582千円
未払法定福利費	16,383千円	18,899千円
その他	7,087千円	6,388千円
繰延税金資産小計	222,832千円	234,013千円
評価性引当額	867千円	2,582千円
繰延税金資産合計	221,964千円	231,431千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,296千円	2,187千円
繰延税金負債合計	1,296千円	2,187千円
繰延税金資産純額	220,668千円	229,243千円

(注) 前事業年度および当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	158,935千円	164,151千円
固定資産 - 繰延税金資産	61,732千円	65,091千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.6%	37.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.3%	0.5%
住民税均等割	2.7%	2.2%
評価性引当額の増減	0.3%	0.5%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	7.4%	
過年度法人税等		1.0%
その他	0.1%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	51.2%	42.3%

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

[次へ](#)

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	1,121円47銭	1,164円14銭
1株当たり当期純利益金額	67円19銭	91円88銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載していません。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
貸借対照表上の純資産の部の合計額(千円)	2,343,650	2,432,810
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,343,650	2,432,810
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,089,791	2,089,791

3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	140,419	192,015
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	140,419	192,015
普通株式の期中平均株式数(株)	2,089,795	2,089,791

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価 証券	その他有 価証券	カゴメ(株)	4,000	7,140
		(株)名古屋ソフトウェアセンター	100	5,000
		(株)りそなホールディングス	8,000	3,904
		(株)十六銀行	10,000	3,860
		(株)グレイスヒルズカントリー倶楽部	21	590
		(株)富士カントリー-明智ゴルフ倶楽部	2	100
計		22,123	20,594	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	889,225	23,011	12,700	899,536	289,110	44,117	610,425
構築物	10,005			10,005	5,184	992	4,821
工具、器具 及び備品	49,488	2,943	3,431	49,000	33,882	4,954	15,117
土地	604,806			604,806			604,806
リース資産	30,401		30,401			2,404	
有形固定資産計	1,583,926	25,954	46,533	1,563,348	328,177	52,469	1,235,170
無形固定資産							
ソフトウェア	426,263	29,952	431	455,784	243,415	57,841	212,368
リース資産	9,541		9,541			1,506	
その他	5,263			5,263	264	186	4,998
無形固定資産計	441,068	29,952	9,972	461,047	243,680	59,535	217,367
長期前払費用	2,513	1,182	1,313	2,383			2,383
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

ソフトウェア	社内用ソフトウェア開発	21,120千円
建物	技術センター改修工事	11,703千円

2 当期減少額のうち、主なものは次のとおりであります。

リース資産・有形	リース期間満了により	30,401千円
リース資産・無形	リース期間満了により	9,541千円
建物	技術センター改修に伴う除却	7,103千円

3 「長期前払費用」当期末残高は、すべて償却資産以外の資産であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	155	132		155	132
賞与引当金	329,222	355,544	329,222		355,544
受注損失引当金		1,667			1,667

(注) 貸倒引当金の当期減少額「その他」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	868
預金	
普通預金	1,487,873
定期預金	35,192
計	1,523,065
合計	1,523,934

売掛金
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)富士通システムズ・ウエスト	220,267
(株)トヨタコミュニケーションシステム	210,546
東芝ソリューション(株)	148,619
(株)富士通アドバンスエンジニアリング	91,420
(株)豊通シスコム	40,679
その他	616,776
合計	1,328,309

売掛金の発生および回収ならびに滞留状況

当期首残高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	当期末残高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
1,578,544	7,257,049	7,507,284	1,328,309	84.96	73.10

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品

区分	金額(千円)
ソフトウェア関連機器	23
合計	23

仕掛品

区分	金額(千円)
ソフトウェア開発	101,235
合計	101,235

貯蔵品

区分	金額(千円)
事務用品	2,156
その他	2,796
合計	4,952

関係会社株式

銘柄	金額(千円)
(子会社株式)	
イリイ(株)	336,330
(株)ソエル	15,000
合計	351,330

買掛金

相手先	金額(千円)
日本テクノストラクチャ(株)	10,780
(株)フォイス	10,425
(株)情報でんでん	9,179
(株)エフタス	7,234
(株)システムユニーク	5,934
その他	199,033
合計	242,588

1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)りそな銀行	242,712
(株)三菱東京UFJ銀行	161,122
(株)みずほ銀行	120,834
日本生命保険相互会社	83,400
(株)十六銀行	83,300
(株)三井住友銀行	66,660
合計	758,028

長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)りそな銀行	282,012
(株)三菱東京UFJ銀行	138,962
(株)みずほ銀行	101,417
日本生命保険相互会社	67,200
(株)十六銀行	61,150
(株)三井住友銀行	44,460
合計	695,201

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3ヵ月以内
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりである。 http://www.sr-net.co.jp/ir/announce.html
株主に対する特典	なし

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | |
|-------------------------------------|---|---|
| (1) 有価証券報告書
およびその添付書
類ならびに確認書 | 事業年度 自 平成23年4月1日
(第32期) 至 平成24年3月31日 | 平成24年6月26日
東海財務局長に提出。 |
| (2) 内部統制報告書 | 事業年度 自 平成23年4月1日
(第32期) 至 平成24年3月31日 | 平成24年6月26日
東海財務局長に提出。 |
| (3) 四半期報告書
および確認書 | (第33期第1四半期 自 平成24年4月1日
至 平成24年6月30日)
(第33期第2四半期 自 平成24年7月1日
至 平成24年9月30日)
(第33期第3四半期 自 平成24年10月1日
至 平成24年12月31日) | 平成24年8月10日
東海財務局長に提出。
平成24年11月9日
東海財務局長に提出。
平成25年2月8日
東海財務局長に提出。 |
| (4) 臨時報告書 | 金融商品取引法第24条の5第4項および企業内
容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9
号の2(株主総会における議決権行使の結果)の
規定に基づく臨時報告書であります。 | 平成24年6月27日
東海財務局長に提出。 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6月26日

株式会社システムリサーチ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 秦 博文

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 水野 大

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社システムリサーチの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社システムリサーチ及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社システムリサーチの平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社システムリサーチが平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年6月26日

株式会社システムリサーチ

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 秦 博文

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 水野 大

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社システムリサーチの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社システムリサーチの平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。